

パラインフルエンザ

Canine Parainfluenza

パラインフルエンザとは主に犬に呼吸器症状を起こすウイルスで、感染している犬からの空気感染が主な感染経路です。感染している犬は、咳をし、鼻汁を出します。その中にはたくさんのウイルスが含まれています。主に呼吸器のみの感染ですが、大変感染力が強く、また大変治りにくい伝染病です。

この伝染病は単独で感染して症状を現すことはめずらしく、他の細菌やウイルスと混合感染することがほとんどです。このためパラインフルエンザは単独の病気と考えるよりもケンネル・コフの一原因になるウイルスと考えるほうがいいでしょう。（ケンネル・コフも参照して下さい）

原因

パラミクソウイルス科のパラミクソウイルス属に属するパラインフルエンザと言われるウイルスの感染によりおこります。

症状

このウイルスは単独ではあまり症状を示さないとされており、最初は鼻汁（膿性）や咳をするだけで、全身症状はできませんが、放置すると細菌の二次感染や、他のウイルスとの混合感染をおこし、最終的には肺炎を起こして死に至ることもあります。

その他、食欲不振、発熱、呼吸困難、下痢などが見られることもあります。

診断法

動物病院では、一般的に、問診、一般身体検査などを行い仮診断して治療を始めます。この病気は感染犬との接触（ペットショップ、ペットホテル、ペット美容室、入院、ドックショーなど多くの犬の集まる場所）がその原因となるので、その有無を調べるのが重要です。確定診断には外部検査機関に依頼して、ウイルスや細菌の分離を行います。重症の場合はレントゲン検査をはじめとして詳しい検査が必要になることもあります。

治療法

原因がウイルスですので現在のところこのウイルスを殺せる薬はありません。通常は症状にあわせて二次感染防止のために抗生物質、その他、せき止、解熱剤、抗炎症剤、栄養剤の投与、ネブライゼーションと呼ばれる薬剤を霧状にして吸引させる治療法などの対症療法を行います。



自宅での看護法

治療は獣医師に任せるしかありません。自宅では、他の犬への感染に十分注意してください。できれば病犬を隔離すべきです。

退院あるいは通院できるようになったら、消化がよく栄養価の高い食餌を与え、獣医師から指示された投薬をきちんと行いましょう。また、暖かく十分な湿度を保った環境を整えてあげ、汚物などはこまめに処理してあげて清潔な環境を保つことが重要です。冬場は加湿器を用いると病気の予防や症状の軽減に有効でしょう。咳がひどい時には散歩などの運動を控えてあげることも症状の軽減に役立つことがあります。



予防法

パラインフルエンザについてはワクチン接種で予防するしかありません。ウイルスが犬の体内に侵入しても、ワクチンにより免疫ができていれば基本的には発病することはありません。また、仮に発病しても軽症ですみます。



メモ

パラインフルエンザを予防するために、必ず獣医師に相談して適切なワクチンプログラムと追加接種を行いましょ。また、ペットショップ、ペットホテル、ペット美容室、入院、ドックショーなどで他の犬との接触を経験した後に咳などの症状がでたらケンネル・コフを疑い、すぐに獣医師の診察をうけましょ。

きちんとしたペットホテル、ペット美容室、動物病院ではこれらのワクチンを接種していない犬をホテルや入院で預からないのが普通です。また、事前にこれらのワクチンを接種することは飼育者として当然の務めです。